

# キハダ 大西洋

Yellowfin Tuna, *Thunnus albacares*

## 管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

## 生物学的特性

- 体長・体重：尾叉長 2.0 m・200 kg
- 寿命：7～10 歳
- 成熟開始年齢：3 歳
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温 24°C 以上の海域
- 索餌期・索餌場：分布域に等しい
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類、海産哺乳類

## 利用・用途

刺身、すし、缶詰など

## 漁業の特徴

大西洋におけるキハダ漁業は 1950 年頃に始まり、1955 年頃から、竿釣りおよびはえ縄漁業が開始された。当初ははえ縄の漁獲が多くを占めたが、最近年はまき網が主となっている。主漁場は熱帯域であり、特に東部大西洋からの漁獲が多い。近年はまき網の FAD 操業の漁場が拡大し、南は西アフリカ沿岸の南緯 15 度付近、北はモーリタニア沖合の北緯 15 度付近まで拡がっている。はえ縄は大西洋のほぼ全域で操業が行われている。竿釣り漁業は東部、西部大西洋の沿岸部で行われている。

## 漁獲の動向

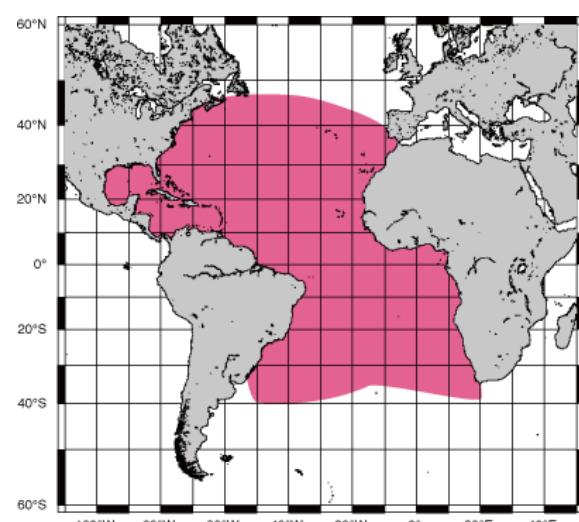
漁獲量は、当初から 1970 年代まではおおむね増加傾向にあり、1980 年以降は 10 万～19 万トンの間で変動し、最近年は、全漁獲量のうちおよそ 70% がまき網、16% がはえ縄、8% が竿釣りにより漁獲されている。1990 年に漁獲量のピーク（19.3 万トン）が記録された後、減少傾向に転じ、2017 年には 13.9 万トン（予備集計）となった。なお、2018 年はブラジルやガーナなどを中心として、過去の漁獲量の改定（増加）が目立った。

## 資源状態

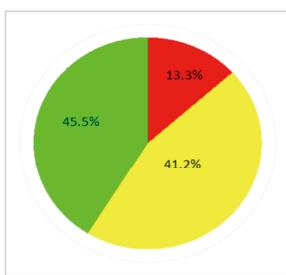
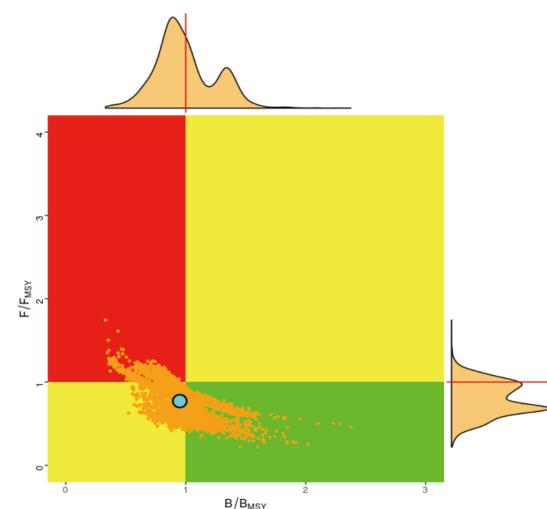
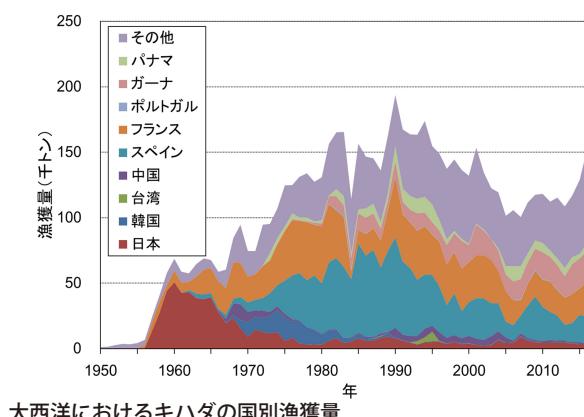
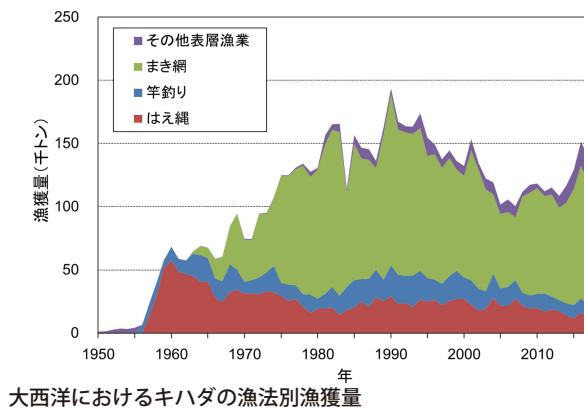
最新の資源評価は ICCAT により 2016 年に行われた。資源評価モデルは、非平衡プロダクションモデル (ASPIc)、年齢構造を持つプロダクションモデル (SCAA, ASPM の一種)、VPA 2-Box および Stock Synthesis (SS) が用いられた。MSY は 12.6 (11.9～15.1) 万トンと推定され、2015 年の漁獲量より大きい。2014 年の資源量は MSY レベルよりやや小さく ( $B_{2014}/B_{MSY}=0.95$  (0.71～1.36))、2014 年の漁獲圧は MSY レベルより小さい ( $F_{2014}/F_{MSY}=0.77$  (0.53～1.05)) と推定された。したがって、2014 年において、本資源は乱獲状態だが、適正なレベルに近く、本資源への漁獲圧は過剰でなかったといえる。将来予測を行うと、漁獲量 11 万トンとした場合、2024 年に資源と漁獲圧が健全な状態 ( $B_{2024}/B_{MSY} > 1$ 、 $F_{2024}/F_{MSY} < 1$ ) である確率は 97% と推定された。

## 管理方策

ICCAT の Recommendation 16-01 (ICCAT 2016b) に基づき、資源管理措置が講じられている。将来にわたる持続的利用を確実にするため、TAC (11 万トン) が設定 (ICCAT 2016b : パラグラフ 11) されている。また、FAD を利用するまき網の禁漁期（1月 1 日～2 月 28 日）、禁漁区域（南緯 4 度、北緯 5 度、西経 20 度とアフリカ西岸で囲まれた海域）および各まき網船の 1 年間の FAD 設置数の上限（500 基）が導入されている (ICCAT 2016b : パラグラフ 13 および 16)。2018 年 11 月の年次会合では、上記の現行措置が 2019 年にも適用されることとされた。



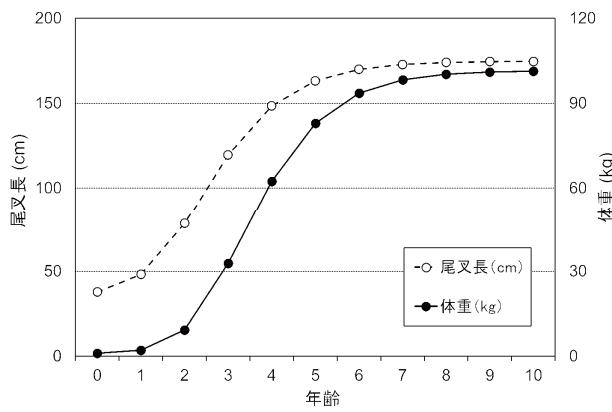
大西洋におけるキハダの分布域



#### 大西洋キハダの資源解析結果

上図：7つの資源評価モデルのブートストラップ試行の結果を統合。大きな青丸は2014年の状態を示す。オレンジ丸は3,500回(7モデル×500回)の各ブートストラップ試行の分布を示す。縦軸は漁獲圧、横軸は資源量で現状/持続可能な値の比で示す。神戸プロットの上側と右側に、それぞれ横軸・縦軸についての頻度分布図を示す。

下図：統合されたブートストラップ試行3,500個(7モデル×500回)が分布する。



#### キハダ（大西洋）の資源の現況（要約表）

資源水準	低位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 (最近5年間)	10.9万～15.1万トン 最近(2017)年：13.9万トン 平均：12.9万トン (2013～2017年)
我が国の漁獲量 (最近5年間)	0.3万～0.4万トン 最近(2017)年：0.3万トン 平均：0.4万トン (2013～2017年)
管理目標	MSY：12.6(11.9～15.1)万トン
資源評価の方法	プロダクションモデル(ASPIC、SCAA) VPA(VPA-2BOX) 統合モデル(Stock Synthesis)
資源の状態	$B_{2014}/B_{MSY} : 0.95 (0.71 \sim 1.36)$ $F_{2014}/F_{MSY} : 0.77 (0.53 \sim 1.05)$
管理措置	TAC(11万トン) FADを利用したまき網操業の禁止(1月1日～2月28日：南緯4度、北緯5度、西経20度とアフリカ西岸で囲まれた海域)および各まき網船のFAD使用数の上限(500基)
最新の資源評価年	2016年
次回の資源評価年	2019年